

プロフィール

福島健一郎

北陸先端科学技術大学院大学情報科学科博士前期課程修了。2011年にアイパブリッシング株式会社をパートナーと創業。社会課題をテクノロジーで解決することをミッションとし、特に行政DXや医療、観光、まちづくりなどに強い。また、2013年5月に日本で初めてとなるシビックテックコミュニティ Code for Kanazawa を9人で設立。開発した5374（ゴミナシ）.jp は全国のコミュニティの手で130都市以上に広がり、その後も、シビックテックを国内に広げるための活動にも力を入れている。デジタル庁オープンデータ伝道師、総務省地域情報化アドバイザー、沖縄県行政DXアドバイザー。

青木和人

あおき地理情報システム研究所代表。オープンデータ京都実践会、Code for 山城代表。立命館大学歴史都市防災研究所客員研究員。京都府立大学公共政策学部非常勤講師。立命館大学大学院文学研究科人文学専攻博士課程後期課程修了。博士（文学）。専門領域は行政情報化、地理情報システム、オープンデータ。京都府宇治市役所勤務を経て、地理情報システム、オープンデータを始めとする地域情報化コンサルティング業務に携わる。また、公共図書館を情報発信拠点としたウィキペディアタウンやOpen Street Map マッピングパーティー、ハッカソンを始めとするシビックテック活動を主宰。さらに、OSGeo 財団日本支部運営委員として、QGIS を始めとするオープンソースGISの普及・研修活動に携わる。

木村博司

WEBIMPACT, INC. 代表取締役。1972年9月、愛知県豊橋市生まれ。2014年 IT勉強会「うずらインキュベータ」を設立。その後、同団体を母体とした地域におけるテクノロジーの実践活用を目指し、2016年 Code for Japan とパートナーシップを締結。シビックテックへと活動領域を広げる。近年は産官学の垣根を越えたネットワークを活かしたコミュニティの形成に尽力すると共に若手メンバーの育成をはじめ、オープンイノベーション醸成に力を入れている。著作・論文等世界初のオープンデータ漫画『まち想い！シブすぎオープンデータ&どすごいシビックテック』 https://drive.google.com/file/d/1ybBU_r8EE2Fd9SVsU1M0fT5SDcKCoMya/view?usp=sharing。関連ホームページ <https://uzura.org/>

岡本真

1973年生。1997年、国際基督教大学（ICU）卒業。編集者等を経て、1999年、ヤフー株式会社。Yahoo!知恵袋をプロデュース。2009年、アカデミック・リソース・ガイド株式会社（arg）を設立。「学問を生かす社会へ」をビジョンに掲げ、“Research”&“Design”を軸に、息の長い産

官学民融合による「共創」「共治」を模索している。近年実績に協働・創発型オフィス「さくら WORKS<関内>」、来訪型町屋シェアハウス「鍵屋荘」、文化機関の被災・支援情報共有のための「saveMLAK」、ユーザー参加型研究の世界の実現を図る「ニコニコ学会β」、創造的復興のための融合施設「須賀川市民交流センター tette」等がある。単共著に『未来の図書館、はじめます』（青弓社、2018年）、『未来の図書館、はじめませんか？』（青弓社、2014年）、『ウェブでのく伝わる>文章の書き方』（講談社現代新書、2012年）等。桃山学院大学、京都芸術大学で非常勤講師。

長野栄俊

福井県文書館主任（司書）（福井県立図書館兼務）。1971年石川県生まれ。1998年に司書として採用され、福井県立図書館に配属。地域資料やデジタルアーカイブ、システム構築などの業務を担当。その間、2008～2014年には県立こども歴史文化館の立ち上げと同館での学芸業務に従事。2019年からは福井県文書館に異動となり、古文書の整理や展示、デジタルアーカイブを担当している。2021年認証アーキビスト。デジタルアーカイブ関連の著書（共著）に『地域資料のアーカイブ戦略』（蛭田廣一編、日本図書館協会）がある。

大河原信子

岡山市生まれ。津山市に図書館司書として採用され、津山市立図書館に勤務。津山市こども保健部こども課を経て2019年4月から津山市立図書館長。定年退職後縁あって2021年4月から四万十町（高知県）で文化的施設整備推進室長として図書館、美術館を含む複合施設の建設準備にかかわる。現在、四万十町企画課文化的施設整備推進室長、四万十町立図書館長、四万十町立美術館長を兼務。

加納靖之

東京大学地震研究所／地震火山史料連携研究機構・准教授。専門は地震学。最近のおもな研究対象は、過去に発生した地震などの自然災害。京都大学在職中、2012年ごろからくずし字の勉強をはじめ。市民参加型の歴史資料翻刻プロジェクト「みんなで翻刻」の運営に参加。定常的な地震観測に従事した経験からオープンデータにも関心をもつ。主な共著書に『京都の災害をめぐる』（小さ子社）、『歴史のなかの地震・噴火—過去がしめす未来』（東京大学出版会）、『山村は災害をどう乗り越えてきたか—山梨県早川町の古文書・民俗・景観を読み解く』（小さ子社）。

Miya. m

ウィキペディアン。ウィキペディアには2004年から、ウィキペディアタウンには2014年から参加。2年前までは普通のサラリーマンも兼ねていたが、いまは完全リタイアして「晴

耕雨読」ならぬ「晴遊雨読」の日々を過ごしている。

古橋大地

青山学院大学地球社会共生学部教授、マップコンシェルジュ株式会社代表取締役社長、NPO 法人クライシスマップーズ・ジャパン理事長、東京大学空間情報科学研究センター協力研究員、オープンストリートマップ・ファウンデーション・ジャパン/OSGeo 財団日本支部所属。東京大学大学院新領域創成科学研究科修了（環境学修士）。専門は森林リモートセンシング。地理空間情報の利活用を軸に、Google ジオサービス、オープンソース GIS (FOSS4G)、オープンデータ (OpenStreetMap) の技術コンサルティングや教育指導を行なっている。ここ数年は「一億総伊能化」をキーワードにみんなで世界地図をつくる OpenStreetMap に熱を上げ、GPS、パノラマデバイス (GigaPan)、無人航空機 (UAV/Drone) を駆使して、地図を作るためにフィールドを駆け巡っている。

宇根寛

1958 年、東京都生まれ。1981 年、東京大学理学部地理学教室卒業。同年、建設省（現・国土交通省）国土地理院入省。主に主題図作成、地理調査、地殻活動研究、国際交流に従事。JICA 長期専門家（ケニア測量局アドバイザー）などを経て、国土地理院地理地殻活動研究センター長を務め、2019 年退職。専門は地理学、地形学、地図学。現在は、一般財団法人日本地図センター客員研究員、中央開発株式会社技術顧問。お茶の水女子大学文理融合 AI・データサイエンスセンター研究協力員。主な著書に、本シンポジウムでも取り上げられた『地図づくりの現在形』（講談社）をはじめ、『防災・減災につなげるハザードマップの活かし方』（共著、岩波書店）、『今こそ学ぼう地理の基本』（共著、山川出版者）などがある。

佐藤亮介

株式会社マップクエスト代表取締役。1976 年 11 月生。元システムエンジニア。1998 年に同社に入社後、地理情報システム (GIS) の開発に 14 年携わった後、企画室長を経て 2010 年 8 月に代表取締役社長に就任。タイ・ベトナムのエンジニアと連携したオフショア開発の体制を構築。「GIS で社会を豊かに」をスローガンに新分野の開拓に注力。鳥獣被害対策やドローンのインフラ点検やナビゲーション、衛星データの活用研究などに取り組む。2016 年電波の日、東海総合通信局長賞、2017 年 第 62 回 森林技術賞（努力賞）受賞。2014 年には株式会社ウェブインパクトの木村様と共同で IT 勉強会「うずらインキュベータ」を設立、2015 年に「TOYOHASHI OPEN DATA HACK」を開催するなど、オープンデータ推進にも取り組む。2021 年 4 月にオープンデータ推進と GIS の啓蒙のためのノーコード開発ツール『どすごいマップ』をリリース。どすごいマップ公式 <https://www.dsmap.net>